

## 特集「日本の海棲哺乳類化石」

名取和香子\*

2015年11月14日から15日，“喜多方市カイギュウランドたかさ”にて第144回化石研究会例会（高郷例会）が開催された。

本例会が開催された福島県喜多方市高郷町では、海から陸への変化を連続的に記録した新第三紀の地層を観察でき、約1000～900万年前の塩坪層からアイツタカサトカイギュウ・ナガスクジラ科の鯨類などの海棲哺乳類化石や耶麻化石動物群といわれる貝類化石など、多くの報告がある。1973年のクジラ化石の発見以来、地元が中心となって、多くの方々の協力を得ながら化石発掘調査が続けられ、これらの化石標本を地元で保管・展示するために、高郷郷土資料館が1983年に、そして“喜多方市カイギュウランドたかさ”が2010年につくられた。

本例会では「日本の海棲哺乳類化石」というテーマで、高郷の海牛類と鯨類を中心にしたシンポジウムで5つの講演と展示室での討論、巡検がおこなわれた。会津化石研究グループの佐藤智子氏、佐藤勝氏、岸真一氏の講演「会津高郷の化石発見の歴史と研究活動」では、高郷で発見された化石と研究グループの活動の歴史と現状について紹介され、地元からの声が発信された。犬塚則久氏（古脊椎動物研究所）の講演「海牛とクジラの話—語源・分類・形態・系統・進化—」では、水生動物の収斂進化の一例としてクジラとカイギュウの比較解剖学的研究が紹介され、地元高郷の方からも積極的に質問が出された。展示見学では、カイギュウランドの常設展、高郷のクジラ化石を最初に発見した当時の女子高校生のインタビュー映像資料、企画展「コレクション展（化石・鉱物）」、「模型作品展」があり、実物を前に多くの意見交換がなされた。田辺智隆氏（長野市戸隠地質化石博物館）の講演「長野県北部 戸隠周辺の海棲哺乳類化石と博物館活動」では、戸隠地域で発見されている海棲哺乳類化石と博物館活動が紹介された。会津化石研究グループより、地元での活動に関連した質問が出された。長澤一雄氏（山形県立山形中央高等学校）の講演「東北地域の海棲哺乳類化石と山形近海の漂着鯨類」では、ヤマガタ

ダイカイギュウやケトテリウムなどの化石、漂着したオオギハクジラについて紹介された。小林昭二氏（会津化石研究グループ）の講演「福島県喜多方市高郷町産の海棲哺乳類化石」は、クジラ化石とカイギュウ化石の展示室にておこなわれ、実物のアイツタカサトカイギュウや鯨類・鰭脚類の化石標本を前に、多くの議論が展開された。巡検「カイギュウがいた会津の海—塩坪化石層—を歩く」では、アイツタカサトカイギュウやナガスクジラ科の鯨類化石などが発見されている塩坪層の模式地を歩き、露頭を観察した。化石産出地を確認し、堆積相や産出した化石などから当時の環境に関して多くの議論が繰り広げられた。

私は、高郷での例会開催に向けて多くの方々と準備を進めてきた中で、化石研究会が、本来、化石の研究を進めていく際に他分野の研究も取り入れるという視点を持っているということを知った。また、様々な活動を会津で経験していく中で、一般の人と研究者の垣根を取り払って、地元の人や化石に興味がある人など、どんな人でも化石を見ることができ、話を聞くことができる例会にしたいと考えた。

地元の方々の協力とご支援により、今回の例会は、一般の方も会員と一緒に学び、様々な標本を前に議論することができ本当に貴重な機会となった。

この特集は、例会でのシンポジウムのうち3本の講演内容を、講演者の方々に執筆していただいたものである。これにより、参加できなかった方にも当日のシンポジウム的一端をお伝えできることを嬉しく思う。

最後に、化石研究会高郷例会に際し、準備の段階からご協力いただき、会場を提供し、後援を快諾して下さった喜多方市・喜多方市ふるさと振興株式会社、さらにご挨拶いただいた喜多方市教育長の芳賀忠夫氏、喜多方市ふるさと振興株式会社専務の菅野康裕氏、講演者の皆様、さらに会誌に原稿を投稿していただいた皆様、ご協力をいただいた会津化石研究グループ、新潟骨ゼミの皆様、地元高郷をはじめ各地よりお越しくございました皆様、様々な形で関わって下さった多く皆様に心より御礼申し上げます。

\* 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 信州大学総合理工学研究所

Graduate School of Science and Technology, Shinshu University, 3-1-1 Asahi, Matsumoto 390-8621, Japan  
E-mail: over.the.seal4@gmail.com